



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（溶連菌）に注意！

溶連菌って・・・？

- ・主に小児に感染することが多く、A群溶血性レンサ球菌によってさまざまな症状を引き起こします。
- ・冬、春～夏にかけて流行し、昨年夏以降の患者数が増加しています。A群溶血性レンサ球菌による急速に多臓器不全がおこる劇症型溶血性レンサ球菌感染症が50歳未満を中心に増加しています。

神戸市A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（溶連菌）

患者数（定点当たり）



警報レベル
1定点当たり8.0人/週

参考：神戸市感染症統合情報システム

症状

- ・2～5日の潜伏期間後、38℃以上の突然の発熱と全身倦怠感、咽頭痛によって発症し、莓状の舌等が出現、しばしば嘔吐を伴います。
- ・熱は3～5日以内に下がり、1週間以内に症状は改善します。まれに重症化し、全身に発赤がひろがる猩紅熱（しょうこうねつ）に移行することもあります。

感染経路

患者の咳やくしゃみからの「飛沫感染」、菌が付着した物を触って感染する「接触感染」が主な感染経路です。

治療・予防

治療は薬物療法です。

予防は

- ・手洗い、うがい、咳エチケット等の基本的な感染対策
- ・流行情報を知り、患者との接触をさける



参考：国立感染症研究所：A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは
東京都感染症情報センター